

この号の内容 >>> 専門職向け

1. 「看取り」のためのパンフレット作成ワーキンググループの活動について
2. 緩和ケアカンファレンスの参加について
3. 研修会のご案内
在宅医療各種検討課題検討会①
第1回多職種研修会



まちななかラウンジNEWS

1. 「看取り」のためのパンフレット作成ワーキンググループに活動について

長崎市と長崎市医師会は、在宅医療・介護連携促進のため、長崎市包括ケアまちななかラウンジを事務局とし、有識者によるワーキンググループを編成して、施設等の専門職向けと市民向けに「看取り」のパンフレットの作成作業を、昨年度から行っています。

「看取り」に関しては、長崎市が65歳以上の市民8,000人を対象に令和5年に実施した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の結果、約60%の方が人生の最期を在宅（自宅や施設）で迎えたいと希望していることがわかりました。一方、長崎市が令和4年に実施した「長崎市在宅医療・介護連携実態調査」によると、約70%の医療・介護従事者が在宅で看取りをすることに不安や負担を感じており、その理由として、看取りを行うための知識がないことが大きな割合を占めていることがわかりました。こうした医療・介護従事者の不安の解消やご本人やご家族の理解の向上を図るため、2カ月に1回のワーキングを実施し、今年度中の完成を目指して、長崎年版「看取り」のためのパンフレットの作成に取り組んでいます。

作成中のパンフレットは、OPTIM（緩和ケア普及のための地域プロジェクト）が作成した「これからの過ごし方について」をベースに、終末期の過ごし方のほか、人生会議（ACP）、エンゼルケア、グリーフケア、デスカンファレンスに関する解説を加えています。また、「看取り」に臨む前の準備や心構え、「看取り」後のフォローや癒し等についても記載したいと考えています。多くの市町で「看取り」に関するパンフレットや手引きが発行されていますが、ほとんどがOPTIMの「これからの過ごし方」の挿絵を使っています。長崎版「看取り」のパンフレットでは、挿絵も刷新し、内容もオリジナリティーの高いものを作成したいと考えています。

作成後は各介護施設に配付を予定しています。長崎市のホームページにも公開しますので、ぜひご活用ください。

※ 11月には「看取り」に関することをテーマにした「市民健康講座」の開催を予定しています。

ワーキングの様子

「看取り」パンフレットワーキングメンバー（順不同）

後藤 慎一	長崎原爆病院 緩和ケア部長
土屋 知洋	長崎市医師会理事 ちひろ内科クリニック 院長
山口 達之	長崎市医師会理事 山口内科・循環器内科 院長
奥平 定之	長崎市医師会理事 奥平外科医院 院長
詫摩 和彦	たくま医院 院長
佐田 悦子	アクア薬局矢上店 在宅医療部薬剤師
下屋敷 元子	長崎県看護協会 在宅支援事業部 部長
金子 和美	長崎県看護協会訪問看護ステーション 管理者
増田 弓華子	聖フランシスコ病院 緩和ケア認定看護師
大町 由里	長崎市介護支援専門員連絡協議会 会長
山下 正洋	介護老人福祉施設牧島荘施設サービス課長
宮地 登代子	元長崎市包括ケアまちななかラウンジ主幹
高西 真美	長崎市地域包括ケアシステム推進室 係長
山口 典昭	長崎市包括ケアまちななかラウンジ 所長
松原 久美子	長崎市包括ケアまちななかラウンジ



